

地域活動専門員日誌



向上陽子さん テレビ電話を使った健康づくり（健康づくり担当）



ICT健康塾に行こう！

着任して7カ月。さまざまな遠野の健康づくりの現場に参加しています。12月19日にはテレビ電話を通じて健康づくりに努める「ICT健康塾」の、医師による健康指導に参加しました。通常検診の場合、検査結果が正常値であれば指導はありませんが、ICT健康塾では、前回の検査値と比較して適切なアドバイスをしてもらえます。参加者は、約半年に一度の医師の健康指導を励みに、健康づくりに取り組んでいます。健康的な生活をしたいと思っ

中学校再編成ニュース



①遠野中学校 ②遠野東中学校 ③遠野西中学校 ※配色は調整中です

3新設中学校の校章が決定しました

新設中学校3校の校章が決定したので紹介します。

- ①遠野中 スズランの周りには稲穂と柏は、遠野三山を表現しており、その山々のように健全に育ててほしいという願いが込められている
- ②遠野東中 ひし形は遠野の大地を表し、雄大な自然の中で元気に活動してほしいという願いが込められている
- ③遠野西中 4つのヤマユリは西中学校区の4つの小学校を表し、中心の輪は生徒が一丸となり学校を築き上げていく願いが込められている

※この校章は各学校の校舎への掲揚や学校旗に使用されます



練習の成果を華麗に披露 遠野一輪車クラブ発表会

遠野一輪車クラブ(多田弘代表、メンバー20人)による発表会「一輪車の風」は12月24日、市民センター大ホールで開催されました。訪れた250人は、全国で活躍している同クラブの美しい技と息の合った華麗な演技に魅了されました。メンバーは活動を支えてくれる家族や指導者へ感謝の思いを込め、ソロ、ペア、グループの全16演目を堂々と披露しました。思いのこもった華麗な演技が披露されるたびに、会場からは大きな拍手が送られました。



ダイナミックな技を披露するペア



グループでは息の合った演技を披露



表現力豊かな演技で観客を魅了しました



力作がズラリ！



お好みの形に彫ります



最後はそれぞれの作品の品評会

手作りの年賀状を送ろう 年賀状スタンプ作り講座

年賀状用のスタンプ作り講座は12月3日、駅前まちおこしセンターで開催されました。心のこもった年賀状を作ってもらいたいと遠野郵便局が初めて企画した講座には24人が参加。材料である約7センチの消しゴムを使い、オリジナルのスタンプ作りに挑戦しました。テーマは来年の干支にちなみ「へび」。参加者は彫刻刀でかわいらしいへびのイラストや「巳」の文字などを作り上げました。小原千代子さん(青笹町)は「大船渡市の早期復興を願い、同市の花であるツバキを彫りました。上手くできたので早速年賀状作りに使ってみます」と力作に満足した様子でした。



子育て環境の充実を誓う 市助産院5周年記念式典

市助産院「ねっと・ゆりかご」の開設5周年を祝う「ハッピーバースデーゆりかご・元気わらすっこ暖らん会」は12月2日、あえりあ遠野交流ホールなどで開催されました。記念式典や各種イベントが行われ、参加した市民や関係者ら400人は5年間の歩みを振り返り、子育て環境の更なる充実を誓いました。

式典では同院の取組内容の紹介や功労者表彰のほか、医師の木下博勝さん、女子プロレスラーのジャガー横田さん夫妻のトークショーも開催。市民センターでは料理教室などの親子教室も開催され、参加者はイベントを通じて、親子の絆を深めました。



上・左/市助産院を通して生まれた子どもたちが功労者へ花束を贈呈 右/軽やかなトークで会場を沸かせた木下夫妻



各種教室を通じて親子の絆を深める参加者

自慢の商品を元気に販売 上郷小の児童が販売体験

上郷小学校の5年生16人は12月15日、夢産直かみごうで販売体験を行いました。自分たちが生産した餅米を使った大福や切り餅を販売し、農業や販売業の仕事を学びました。児童は販売班と呼び込み班に分かれて販売し、買い物客に「いらっしゃいませ。お一ついかがですか」と元気よく呼び掛けました。店内は児童の元気な掛け声と買い求める客でにぎわい、用意した150パックはわずか30分で完売。売上の一部は被災地の小学校に寄付する予定で、児童は体験を通じて助け合いの心も学びました。



体験を通じ販売の現場を学ぶ児童

日本の文化通じ絆深める 南国の研修生が遠野訪問

南国のサモアやトンガから来日している研修生46人は12月8日、附馬牛町の早池峰ふるさと学校を訪れました。青年海外協力協会(JOICA)が被災地支援で実施する「キズナ強化プロジェクト」の一環で釜石などを訪問。このほか日本の文化を学ぼうと遠野を訪れ、ひつまみや漬物などの日本の伝統食や、草履づくり体験などを通じ、日本の暮らしに理解を深めました。サモアの大学生サマディエイ・ダーレンさん(22歳)は「日本の料理や文化から日本人の温かさに触れることができました。ぜひまた来たいです」と満足した様子でした。



さまざまな体験を通じ交流した研修生と附馬牛の地域住民